

工業部会通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
商工会館本館1階
※プリントしてご自由にお読みください。



工業交流会を開催

49人参加 初参加の顔ぶれ多く



初参加が多かった工業部会の交流会

工業部会会員の情報やネットワークづくりを目的とした「会員交流大会(工業版)」が7月26日、市立産業会館で開かれた。相模原の工業人たちに垣根を越えた交流を持ってもらうことで、部会活動の活性化につなげようと企画された。今回で6回目。主催はKIZUNAプロジェクト(那須隆仁委員長)。



講演する青学大の松本教授

KIZUNAプロジェクト

医療産業参入でセミナー

マーク電子本社で開催

9月16日

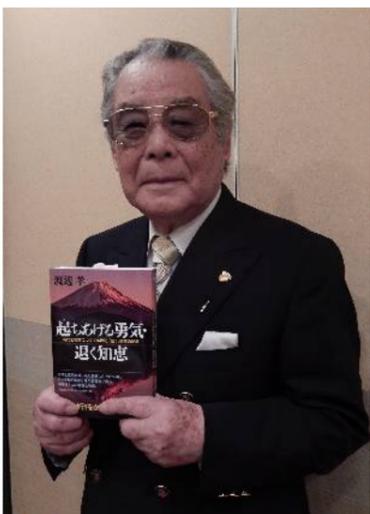


マーク電子の村山社長

G E Tプロジェクト(早川正彦委員長)は、9月16日の午後3時~5時半まで「医療機器市場に挑むものづくり企業」と題したセミナーを開催する。同プロジェクトによる医療産業参入セミナー

第4弾。会場は緑区橋本台のマーク電子本社工場。講師は同社の村山忠雄社長が務める。電子機器製造業から医療機器産業への参入を遂げた同社の実体験に基づ

き、中小企業の医療機器産業参入のポイントについて解説する。講演会後は、医療機器・放射線測定機器の生産施設および「環境試験」設備を備えた「R&Dインベションセンター(平成27年12月開設)」の見学会も実施する。参加無料。定員40人まで。申し込み、問い合わせは、産業振興課・高井042(753)8136まで。



事業家の渡邊氏が本出版

社長道を歩む 経営者は必見

若い世代に伝えたいことがある。事業家の渡邊孝さん(88)の半生をつづった「起ち上げる勇気・退く知恵」(文芸社刊)を出版した。津久井湖ゴルフ倶楽部(津久井湖観光)社長を務めた渡邊さんだが、戦後の混乱期からスタートし、そこから起業して半世紀以上駆け抜けてきた。

事業家の渡邊氏が本出版

「今や簡単に起業できるようになりましたが社長道を歩む人には『覚悟と勇気』が必要です。脳みそが汗をかくほど悩んでみる。苦労こそが人を一回り大きくします。そして事業を存続させるには、先を見通す力も必要です」と渡邊さん。本の最後には資料編として、渡邊さんが社長業、人生を通じて得てきた知恵や教訓を箇条書きで掲載している。そうした内容は、社長にとっては目から鱗になりそうだ。(かながわ経済新聞)

交流会に先立ち、青山学院大学理工学部・松本俊之教授が「ドイツにおけるものづくりの調査報告」と題した講演



告と私見」と題した講演会を行った。松本教授が現地視察した「インダストリー4.0」や「ロボット活用」などの実情について報告。製造業にとってはタイムリーなテーマだけに、参加者たちは熱心に聞いていた。セミナーに続いて開かれた交流会には49人が参加。うち13人が初参加となった。参加者の情報発信ツールとなる「交流シート」を活用。初対面でも互いの情報が分かるような工夫がなされた。シートには得意とする技術のPRや仕事の依頼、経営に関すること、連携・協力といったビジネスに関する話題のほか、地域情報や趣味・娯楽などの項目も設けられた。



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中

近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会